

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財

上郷瓢箪塚古墳

上三川町は多くの古墳が存在しますが、その中で最も大きな古墳が今回紹介する上郷瓢箪塚古墳です。大字上郷の江川に近接した台地縁辺に位置し、部分的に古墳の周りを廻る周濠と呼ばれる堀も確認できます。上郷瓢箪塚古墳は南向きの前方後円墳で、全長68m、前方部の幅36m・後円部の径は38m、高さは前方部後円部とも6mと非常に立派な古墳です。発掘調査はまだ行われていないため詳細は不明ですが、古墳時代後期(6世紀)に築造されたものと考えられます。

さて、古墳の形で皆さんが真っ先に思い浮かべるのは、前方後円墳だと思えます。この形の古墳は3世紀後半から末に大和地方で成立し、徐々にその分布範囲を広げ、6世紀末には青森県を除く本州と九州・四国地方に分布するようになります。中でも4世紀の大和(現…奈良県)地方と、5

世紀の河内・和泉(現…大阪府)に特に大きな前方後円墳が多く分布することから、前方後円墳の分布範囲は、畿内地方のこれら政治勢力が主導する政治関係と重なるものと考えられます。

栃木県における古墳の様相を見てみると、古墳が出現した段階では、東日本の他地域と同様、前方後円墳ではなく後円部が四角い「前方後方墳」の数が多数を占めることがわかっていきます。これが続く古墳時代中期になると、宇都宮市の笹塚古墳を皮切りに、畿内地方と同様の形をした前方後円墳が作られるようになるのです。この時期に前方後円墳を築いた権力者が、畿内地方の政治勢力との関係を背景に、この地域での基盤を強固なものにしたと考えられます。栃木県における大型前方後円墳の変遷を見ると、田川流域に築造されたものが、やがて壬生町を中心と

した姿川・思川流域に移っていきませんが、前方後円墳の変遷を追うことは、当時の政治権力の変遷を把握することになります。

上郷瓢箪塚古墳の築造された古墳時代後期の6世紀は、栃木県においても水田開発が活発化し、食糧の生産量の増加と共に、中小の豪族層が勢力を伸ばした時代ともいわれます。これに伴い、群集墳に代表されるように多くの古墳が活発に築造された結果、前段階に見られた古墳がもつ政治性が薄れたといわれますが、周辺に無いような規模の前方後円墳である本古墳に埋葬された人物は、大きな政治力を持つていたことは間違いなさそうです。



上郷瓢箪塚古墳

| 古 墳 時 代 | | | | | | | | | | 世紀 | | | | | | | | | | | |
|--|-----|-----|--------------------|--|--|-------------|-----|--|-------------|-----|-----|---------------|-----|-----|-------------|--|--|-------------|--|--|------------------|
| 7世紀 | | | 6世紀 | | | 5世紀 | | | 4世紀 | | | | | | | | | | | | |
| 687 | 673 | 604 | 603 | | | 538 | 527 | | | 413 | 404 | | 399 | 391 | | | | 西暦 | | | |
| 下野国に置く。 | | | この年、下野薬師寺が創建するという。 | | | 冠位十二階を制定する。 | | | 十七条憲法が作られる。 | | | 多功大塚山古墳が造られる。 | | | 古墳の築造が減少する。 | | | 前方後円墳が消滅する。 | | | で き こ と |
| 帰化した新羅人を | | | 帰化した新羅人を | | | 帰化した新羅人を | | | 帰化した新羅人を | | | 帰化した新羅人を | | | 帰化した新羅人を | | | 帰化した新羅人を | | | |
| 巡回バス最寄りバス停 本郷線(ピンクのバス) 橋本公民館下車、徒歩5分 ▼問い合わせ先= 生涯学習課 生涯学習係 ☎(56)9159 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |